大阪は‘まち’がほんまにおもしろい

大阪あそ歩 OSAKA ASOBO®

淀川の風に吹かれて
～淀川の渡し跡からワンドへ、鉄橋へ～

明治時代の改修で大きな変貌を遂げた淀川。改修の歴史に触れるとともに、心地良い風を体に受けながら、淀川左岸堤防沿いに橋寺・赤川の両廃寺跡や渡し跡を訪ね、心和むワンド群を眺めつつ赤川鉄橋へと向かいます。

◎ 淀川改修

近代的な淀川の改修は、オランダ人技師のデ・レーケを中心に行われた修築工事（1874～1888）と、日本人技師の沖野忠雄を中心に行われた改良工事（1896～1910）の大きく2つに分けられます。前者は低水工事で主に伏見～大阪間の蒸気船航路確保のために行われ、粗朶沈床工（そだちんしょうこう：木の小枝や下草を使って格子状に組んだマットを幾重にも重ねて大きな石で両岸の川底に沈める工法で、ケレップ水制とも言われる）という水制を用いることで、明治初期に平均水深40cmと言われた淀川の流れを真ん中に集めて水深を150cmに保ち、川の流れを穏やかに曲げました。この水制によって多数のワンド群が形成されています。また、デ・レーケは淀川水系の砂防工事にも力を注ぎました。後者は、明治18年（1885）の淀川大洪水で甚大な被害を被ったことを契機として沿岸住民より淀川改修運動が起こり、洪水による河川災害を防ぐ必要性から行われた高水工事です。瀬田川から河口までの区間で、新淀川と長柄運河の開削、毛馬第一閘門・洗堰の建設から瀬田川の浚渫と洗堰建設に至るまで、現在の淀川を形作る工事でした。

◎ ワンド

淀川修築工事で用いられた水制は、岸から川に向かって垂直に幾つも設置されました。川が自然に運ぶ土砂はこれらの水制にひっかかることで次第に溜まり、土砂の上に木や草が生え始め、時を経て現在数多く見られるワンドの形になりました。ワンドは水の流れがほとんどなく、魚の棲みやすい環境が作られています。

◎ ヨハネス・デ・レーケ（1842～1913）

明治6年（1873）に日本政府招請のお雇い工師（土木四等工師）として来日し、大阪に居住しながら淀川修築工事に従事しました。淀川だけでなく、大阪築港計画の立案、木曽川改修など、明治36年（1903）にオランダに帰国するまでの約30年間の功績が認められ、日本の近代河川・港湾の恩人と言われています。

◎ 沖野忠雄（1854～1921）

豊岡に生まれ、東京で大学南校に通った沖野は、明治9年（1876）に文部省留学生としてパリ中央諸芸学校土木建築科に留学し、フランスの土木工学を学びました。明治14年（1881）に帰国した後、内務省に入省し、日本各地の土木監督署で諸河川の工事に携わりました。明治22年（1889）に大阪を管轄する第四区（後の改正で第五区）土木監督署勤務となり、土木監督署長となった沖野は、明治27年（1894）に内務大臣・井上馨に「淀川高水防禦工事計画意見書」を提出し、明治29年（1896）から行われた淀川改良工事の計画を立案、工事監督を務めました。翌明治30年（1897）からは淀川改修と不可分の関係にあった大阪築港工事の工事長を併せて務め、明治44年（1911）に内務技監として東京に戻るまで長きにわたり大阪にて職を全うし、後に日本の治水・港湾の祖と崇められる程の功績を残しました。

① 橋寺廃寺

昭和34年（1959）に、淀川河川敷で井戸、古代の瓦、中世土器が発見され、地名を取って橋寺廃寺と名付けられました。『行基年譜』の天平13年記記載の高瀬橋院ではないかとも言われています。行基はこの辺りに高瀬大橋を架けたとされ、橋を管理するための寺が置かれたものと思われます。

② 平太渡し跡碑

幕府より渡船権利を得た沢田太郎左衛門は、延宝4年（1676）頃より平田の渡しの営業を開始します。平田の渡しは、明治40年（1907）に大阪府営、大正14年（1925）に請負制度による大阪市営となり、昭和23年（1948）に大阪市直営となりました。約300年にわたって営業が続けられた平田の渡しは、船頭が竿と櫓を使う手漕船でしたが、昭和35年（1960）に発動船が導入され、最盛期には1日に3,000人の乗客と670台の自転車を運ぶ、まさに市民の足となりました。昭和45年（1970）、大阪万博開幕直前の3月3日に豊里大橋の開通と同時に最後の営業を行い、最終日には「おなごり乗船券」が発売されました。

③ 大阪工業大学エントランス

大正11年（1922）、関西工学専修学校（現大阪工業大学）の初代校長兼理事長に就いた建築家の片岡安（かたおか　やすし）は、東京帝国大学卒業後、日本銀行技師を経て、明治38年（1905）に辰野金吾と辰野片岡建築事務所を開設しました。同事務所は、大阪市中央公会堂を設計することとなり、大正2年（1913）から建設を着工し、大正7年（1918）に完成させました。大阪工業大学では、同大学開校70周年を記念して、大阪市中央公会堂を模したメモリアルゲートを建設しました。

④ 城北公園

昭和3年（1928）、淀川改修工事に伴い廃河川敷となった地を利用して、「豊里公園」建設計画が立案され、昭和8年（1933）に起工し、翌昭和9年（1934）に公園が開園しました。その際、大阪城の北方に位置することから「城北公園」と名称を改めました。開園当時の設備としては学校教材用の植物園や貸農園、池などがあり、後に昆虫館が設けられました。

⑤ 城北菖蒲園

昭和28年（1953）に城北公園内の貸農園が廃止され、花菖蒲園の造成計画が立てられましたが、予算が付かず実現しませんでした。その後、昭和36年（1961）に菖蒲園造成に着手し、翌年から菖蒲を植え始めました。当時、菖蒲で有名だった名古屋の鶴舞公園や明治神宮の菖蒲園から菖蒲を株分け・分譲してもらいました。昭和39年（1964）には関西で初めてできた回遊式の花菖蒲園として開園し、昭和49年（1974）に菖蒲園を面積1. 3haまで拡張しました。5月下旬頃から約250品種、約13,000株のハナショウブが咲き乱れ、開園期間中は毎年多くの見学者が訪れます。

⑥ 千人塚

昭和20年（1945）6月7日の大阪大空襲は、甚大な被害をもたらしました。戦死者数万人のうち、身元がわからない千数百人の遺体をこの辺りに集め、疎開家屋の木材を利用して火葬しました。当時、黒煙が天に昇り、それは三日三晩に及んだとされます。

⑦ 赤川廃寺、日吉神社

淀川大改修によって川床となった場所に、1225～1230年頃、赤川寺（せきせんじ　別名：大金剛院）と呼ばれる寺院があったと推定されています。赤川寺の境内には山王社または山王権現と呼ばれた神社があり、日吉大社の分霊を祭神としていました。赤川寺は大坂夏の陣の戦火によって炎上して廃寺となりましたが、神社は類焼しませんでした。その後、明治32年（1899）に淀川改良工事によって境内地を200m南へ移し、明治40年（1907）に山王社は日吉神社と改称しました。

⑧ イタセンパラ発見の地

別名ビワタナゴと呼ばれる日本固有種の淡水魚で、板のように平たく、色鮮やかな腹部を持つことからイタセンパラ（板鮮腹）と呼ばれています。淀川水系の他、富山平野と濃尾平野にのみ分布し、淀川水系では琵琶湖や巨椋池に生息していましたが絶滅しました。淀川ではワンド周辺以外では見ることができず、現在はなかなか発見することができません。昭和46年（1971）に淀川では絶滅したと思われていたイタセンパラを市岡高校の生物部がワンドで発見し、3年後に天然記念物指定されました。

⑨ 赤川鉄橋

正式には城東貨物線淀川橋梁と言いますが、地元では赤川鉄橋と呼ばれています。貨物列車の走る鉄道橋の真横を木橋の人道橋が通り、淀川堤防を散歩する人、自転車に大変人気のスポットです。1日のうち、貨物列車が通る本数は限られていますが、幸運な時は貨物列車を見かけることができます。大正14年（1925）に城東貨物線を着工し始め、昭和4年（1929）3月に吹田操車場～放出区間が開通しました。貨物だけでなく客車の運行については昭和27年（1952）にすでに城東貨物線客車運行促進同盟会が結成されていました。JRおおさか東線として、久宝寺駅から新大阪駅までの工事施工認可を得ていますが、放出以北は未開通です。現時点の工事完成期限は平成30年度末に予定されており、その時、人道橋がどうなるのか注目が集まっています。

【注意事項】 この地図は「大阪あそ歩」のまち歩きの資料として作成されました。まち歩きには、歩きやすい服装と靴を着用してください。車などによく注意し、各自で責任をもって行動してください。また、住宅地では住民のプライバシーに十分配慮して歩きましょう。

【お問い合わせ】 大阪コミュニティ・ツーリズム推進連絡協議会「大阪あそ歩」事務局　電話06-6282-5930（財団法人大阪観光コンベンション協会内）「大阪あそ歩」の詳しいプログラムはホームページをご覧ください。　http://www.osaka-asobo.jp　または 大阪あそ歩 でネット検索を。

大阪あそ歩のコースは約2～3km、2～3時間程度を基準として作成されています。